

記念講演 手話「尼崎」考 一戦中の聾者徴用工一

講師 大矢 遅

日本ろう史学会にお越しの皆さん「こんにちは」。私は今、西滝さんからご紹介頂きました大矢です。手話ではこう表現します。よろしくお願ひします。今日3時まで時間を頂いています。1時間くらいは私がお話をして残りの30分はゲストの方手話「尼崎」の関係者であります。91歳のろう者来て頂いています。その方に舞台上上がって頂いて皆さんからの質問を受けながら30分進めたいと思います。

それから、今日はアジアの仲間、韓国の仲間が来られているんですね。大変うれしいです。今日の私の話とも関係があります。この写真です。見えないですか？資料でお渡ししています。(尼崎精工株式会社)と書いてあります。今日、私の話の中心となります。この会社は韓国やアジアの方と関係が深いので、韓国からも来られていると聞いて、とてもうれしく思います。

尼崎について調べ始めたきっかけは、この「鉄砲」を表す「尼崎」という手話表現です。

以前私は京都におりました。70歳、80歳のろうあ老人達はほとんどの方が「尼崎」という地名をこの鉄砲を表す表現でされたのです。今の「尼」と「崎」という表現を使わずに「鉄砲」の仕草をされるのは何故なのかと私は思いました。

先ほど西滝さんが言われたように手話にはろう者の歴史があります。「手話は言語」というだけではありません。言語の歴史性と言ったらいいでしょうか。人が喜んだり悲しんだり怒ったりという色々な感情も込められています。ろう老人達に聞いてみました。どうして尼崎を鉄砲と表現するのか？何人もの方に聞いてみました。私が生まれたのは戦後です。だからわからない。昔戦争中、昭和16年から17、18年…20年、戦争に終わるまでの短い間でしたが、100人を超えるろう者が尼崎の工場に集まって働いていたのです。その会社の名前が「尼崎精工」という名前なんです。「尼崎精工」というのは何の会社だったのか？それを



知りたいと思い、更に詳しくたずねました。それから書籍・資料なども調べてみました。今から話す内容はろうの先輩方から教えてもらったことと昔のろう者の文献をあたって調べたことです。戦前戦中に発行されていた「聾啞界「や「聾啞の光」といった雑誌があります。その中に「尼崎精工」についてたくさん記述があります。

「尼崎精工」について、どうしてこんなに何度も取り上げられているんだろうか？とまた私は興味を持ちました。それをひとつずつ調べていったわけです。それから「尼崎市地域歴史資料館」にも行ってきました。協力を頂いて調べたことも、今日の話に入っています。

ろう者が100人以上働いていたんです。会社全体で2000人の人が働いていました。2000人の内、約100人がろう者だったんです。20人、30人の人のろう者が働いている会社というのはありますが、100人を超えるろう者が一緒に働いているというのは、当時としては例がない。だから何度も何度も「聾啞界」等に登場したんだと思います。今日の資料でそのコピーをお配りしています。働いていたろうあ者が全部で103人です。その実名で判っています。約半分の75人は今日お配りした資料に、名前が載っています。一番多いのは京都のろうあ者です。次に多いのはここ兵庫、神戸のろうあ者です。次に大阪のろう者。遠い所では

群馬、岡山、名古屋、島根、そういう遠方からもろう者が集まってきて働いていました。

まず「尼崎」の手話はこのように鉄砲のしぐさをします。これを覚えてくださいね。最初でろう者でこの会社に行ったのは京都の人です。どうしてわざわざ京都から尼崎の会社に採用されたんでしょうか？京都で有名なのは何ですか？…鉄砲を作ることじゃないですね。京都の産業といえば…そうですね。織物がありますね。着物を作る、帯を作る、染物をする、そういうことが伝統産業ですね。京都では西陣織や染め物できれいなものがたくさん作られています。

けれども「贅沢なものはだめだ」という禁止令が出ました昭和15年の7月7日のことです。ろうの方達からは「7、7、禁止」という手話で表現されます。若い人達は七夕祭りのことかな？と思われるんですけど、そうではないですね。7月7日の贅沢禁止令のことです。ですからそういう西陣織等にかかわるような仕事はだめだと、軍部から言われてしまいました。戦場での軍人の苦難を考えずして、贅沢な着物を着たりするのはいけない、ということです。

京都では、織物とか着物の染色とかの仕事がされてるろう者が多かったですが、京都のろう学校でも染色科という職業科がありました。とても素晴らしい職人がたくさんいます。そういう着物や帯の絵を描く仕事がと禁止されてしまったわけです。皆さん困られたわけです。その時に資料にあります。

この方ですね、福山さん…手話ではこういう表現をします。福山さんという方がこの方も着物の絵を描くという仕事をしておられました。子供さんもおられて家族3人がその仕事で生活しておられたわけです。ところが、それを禁止されてしまいましたので、これからどうしていこうと非常に困った。そこで、職業安定所…昔でいうと職業指導所とっていたわけですけど、今はハローワークという風に名前が変わりましたよね。その職業指導所に行って相談をされたわけです。

職業指導所の所長さんが佐々木さんという方で、その方と相談しました。そうすると、昭和15年の日本は中国とか満州とかと戦争が始まって、男の人達はどんどん兵隊に行くわけです。中国や満

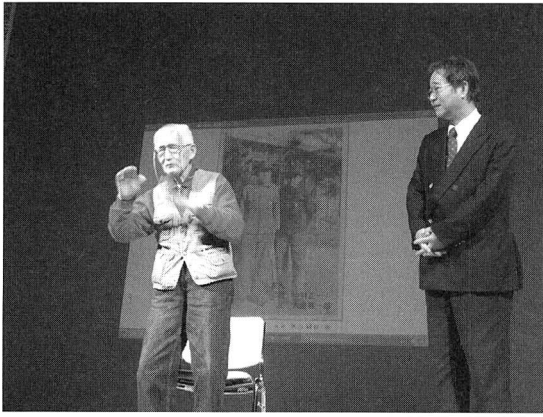
州に兵隊として行ってしまうので男性が仕事をする人が足りなくなってしまうている。で、職業指導所の所長さんとしては尼崎精工から人が欲しいと言われている。で、福山さんが仕事がない、困っていると話が出ましたので、尼崎に行ったらどうかとすすめたわけです。で、同じ様に仕事に困っている聞こえない人がたくさんいるんです。皆な着物の染色とかの仕事をしていた。

だから福山さんは自分一人だけ助かるのでなくて、失業して困っている友人、知人も助かるように、皆な一緒に紹介してもらったらどうかという風に動いたわけです。そして職業指導所の所長が「あ！それがいい」ということで友人を誘った。



そうして京都から11人のろう者が福山さんを中心に、11人が集団で尼崎精工に就労した。昭和15年の9月に尼崎に採用されたわけです。最初のグループとしてその11人が採用が実現した。京都で着物の染色とか織物をやっていた人達が行ったわけです。

皆さんはこれまでは染色で手を染めていたんですけど、それ以降旋盤を使ったり機械を使って仕事をするようになります。これは飛行機を打ち落とすため等の高射砲の信管を作るという仕事です。これまでは染物に絵をつけるというような手先の柔らかい仕事をしていたんですけど、それ以降機械を使って、油まみれになって大変な仕事になったわけです。ですから最初に行った何人かは本当に大変だったんですけど、ここを辞めたいと他に仕事がありませんから、熟練するまで大変な思いをされて、そうして技術を身につけたのです。工場の経営者は、そういうろうあ者の態度を認めたわけです。



この工場は7時半から仕事が始まるとの事です。そうすると京都から通っているろう者は、朝4時に起きて電車に乗って、7時半からの仕事に間に合うように工場に行くということです。そういう出勤態度を見て工場長はろうの人達は非常に真面目できちんと仕事をする！聞こえる人と比べても遜色がないと評価する。

ろう者工員の指揮にあたったのが黒川という人物で、もともとは京都の本願寺の関係者だったと言われています。この写真の一番左の列目に映っている健聴者。この方は以前からろうあ者と交流があった様で、手話も巧みだったとの事です。どうしてかというと、黒川さんがろうあ者の相談役というかたちで採用配置されたわけです。で、この京都から行った11人の方々、非常に優秀だ！仕事もよく出来るという風に認められたので、次々聞こえない人達を採用するということになった。

神戸ろうあ協会にも、その時は岩本さんというもう亡くなられた人ですけど、戦争中に昭和15年、16年、17年ごろにろうあ協会の会長をされていた岩本さんという方にお問い合わせをして、また神戸ろう学校、垂水にあります神戸ろう学校にもお願いに行き、ま…そのころ中学校を卒業して15歳以上ですか…そういう方達で仕事がちゃんとできる方を尼崎に仕事をさせて送り込んでほしいといわれたわけです。そうやって神戸からもろうあ者が採用されていきました。他にも配布しています資料に実名が載っていますが、ろう者独自の組織というかネットワークによって、遠方のろう者達が希望して75人という数にふくれあがったと思われます。

賃金が安いやろう者が機械仕事に適応できずに退職したろう者もいた様ですが、ほとんどは頑張った様です。

戦争中は「徴兵令」と「徴用令」とこの2の法令との関係を「徴兵令」については皆さんご存知だと思います。兵隊にとられるという。写真のように男子が20歳になれば「徴兵」というのがあって、兵役の義務を負う、その検査を「徴兵検査」といいます。

身長、体重、そのほかに、目や耳、口がきけるか。性病があるかどうか、四つんばいにさせられて、肛門の検査、「痔」も調べられたとの事です。そういう様な検査を「徴兵検査」として行われました。この検査の結果、これを甲1、甲2、甲種とか乙種とかに分けられたわけです。

余談になりますが、甲種の中で1、2、又、乙種、丙種、丙種までは戦争にかりだされます。実際の戦場に行きます。それ以下の丁、丁種というのは目や口が不自由な者、精神に障害を持つ者、という事でろう者は丁種になりました。80歳以上の方でしたら、この検査を受けられたという経験のお話を聞いた事があります。丁という事になると兵隊には行けない。ま、そういう中で悔しいと思ったか、又ほっとしたという人もいたか？あー丁で良かった。戦争に行かなくて良かった、ほっとした！と思ったでしょうか？今の皆さんでしたら、ほっとした！だろうと思います。今、現在でしたら。

ところが、以前その時には戦争に行きたい。悔しい。落とされた。恥ずかしい。そういう気持ちが強かった様です。丁など兵役を免除された人でも又、特殊な能力機能を持つ人は「徴用令」の対象とされた。尼崎精工の特徴は、ろう者の工員がこの「徴用令」の適用を受けたという事実です。

「徴用令状」に適用され、「応徴士章」なる徽章(きしょう)をそれぞれもらわれて、それを胸に縫い付けて、この写真の左胸に縫い付けていますが、これが「応徴士」(おうちょうし)という印になりました。

例えばこの徽章を胸につけている人が電車の切符を買う時の、長い行列の最後尾に並ぶ必要がなかったそうです。優先的に切符が買えたと、体験談を語る人もいました。この記事がなければこの

長い列に並んで待たなければいけない、この写真の方は衣川さんという京都の方です。この方に写真を提供して頂きました。

で、食事…配給ですね。この配給も順番に並んでもらうわけですが、この徽章があれば先に優先されたということをお話されていました。肩で風を切るというか、誇らしいものであったそうです。応徴士とは名誉なことだ、と誇っておられました。

当時、各地の軍需工場にろうあ者が進出していましたが、徴用令を適用されたという例は聞いておりません。尼崎精工が初めてと思われる。ただ自由にやめるということにも一定の歯止めがかけられたようです。

これは黒川さんが書かれた文章のコピーをお配りしています。それはそのまま自由に仕事を辞めなければ辞めてもいいというものではなくて、義務として働かなくてはならないという風なことが書かれています。実際この写真にも胸に記章を付けています。そして全員が並んで記念写真を撮っているわけです。昭和17年、18年ごろ例えば大阪で有名な「大阪ダイヤモンド研磨」という会社があって、そこに楯野さんというろうの方、今はもう亡くなりましたけれども、働いておられたようです。大阪ダイヤモンド研磨では、ろうあ者が30名程働いていたわけですが、応徴士ではありません。

いずれのろう者も技術的に優秀だったので、会社の方が高橋潔先生にお会いになって、市立ろう学校の近くの土地に工場を建てて、そこにも工場を作るというようなことが「聾啞界」に書かれています。大阪ダイヤモンド研磨は自由雇用です。

他にも、大阪には宮川工具…戦前からずっと現在もある会社です。大阪のろうあ協会の70歳以上の人でしたら名前を知っていると思います。非常に厳しい会社で、ろうあ者が団結してストをおこしたといことがありました。

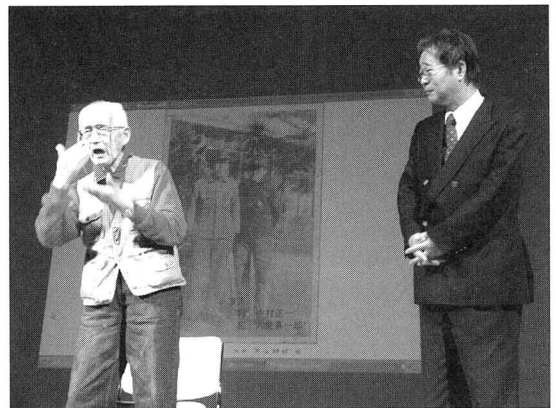
ここも戦時中、昭和17、8年ごろはろうあ者がたくさん働いていました。他にも京都の日新電機、今もある会社です。飛行機のメーター機器類を作っていました。ここもろうあ者がかり出されました。けれども数は少なかったです。10人以下位が働いていました。

それに比べると尼崎精工はケタ違いです。ろう

者が100人を抱えていたという特徴以外に、もう一つの特徴は、働いていたろう者の組織性についてです。尼崎精工で働くろう者は「工和会」という自治組織を作り、会報も発行していたのです。

そうした例は他の会社には見当たりません。この尼崎精工だけです。会報の全部をコピーして、参考資料としていますので、後でゆっくり見てください。名前もちゃんと実名で載っています。エピソードを一つ。こちらの資料の3枚目を見てください。載ってる写真がこれです。尼崎精工では2000人の従業員がいたわけですね。第一工場、第二工場、第三工場と、その工場の対抗の相撲大会があったようです。今なら相撲大会などはないと思いますけど。昔、日本人の娯楽といえば相撲でした。ろうあ者も6人の選手を出しています。聞こえる選手は60人、2000人の中から選ばれた60人と5人ですね。その中で優勝したのは聞こえないろう者か、健聴者か、どちらだと思いますか？ろうあ者が優勝したんです。

岡井という方です。岡井常太郎というろうの方が一番で、二番が仲野さん。ろう者は非常に強くて一番と二番になりました。岡井さんはのんびりした方であったそうです。相撲大会では勝ち抜いていったようです。ろうあ者が優勝するわけですから、さらなる名誉ですね。



生産を競い合うという事もありました。ろうあ者の殆どは、第二工場に集まられていた。工場ごとの生産競争大会に見事、第二工場が優勝した。この写真があります。優勝旗が写っています。あります。今日お配りした資料の表紙の写真の横のほうに、旗がありますね。第二工場が生産競争で勝ったわけですから非常に誇りを持った。

しかしながら一步下がって考えると勝って当たり前なんです。どうして当たり前かというと、聞こえる人達で身体頑丈健康な人達は、みんな兵隊に取られているわけですから、残ってる人達は丁種の人達、一方ろう者は全国各地から選りすぐりの者で固められている

ですから、比べればろうあ者が健聴者に勝つのは当たり前です。「応徴士」は日本人だけではありませんでした。「半島応徴士」というのもありました。半島というのは朝鮮半島ですね。朝鮮からの応徴士というのは強制連行、無理やり連れて来られたわけですね。日本人は多くの方が兵隊に取られて手が足りないわけですから。日本にはろうあ者を集めてもまだ足りない。

「女子挺身隊」というのもありましたね。尼崎精工にも多くの女性が働いていました。例えば松山、四国の松山の中学3年の女学生達が、尼崎精工で働いていました。龍谷大学から又、尼崎の中学校からも強制的に働かされたが、それでもまだ手が足りません。多くの機械を使わなければなりませんから、人をかき集めてきたわけです。

そうした人と比べれば、ろうあ者は身体能力だけでなく、作業能力が高かったわけです。ですからそういった工場の中で、健聴者に勝ったといってもそれほど誇れるというものではありません。それでも会報の中には健聴者に勝ったという事が、非常にうれしいという事が書かれています。あまりのうれしさに、ろう者が徴兵検査で戦争には行けなかった。しかし産業兵士としては、健聴者に勝ったという事で、非常にうれしかったというわけです。

ろう者が誇りに思っていた応徴士ですが、その中には朝鮮半島から強制連行されてきた人達が数多くいました。九州の長崎は造船が有名ですね。そこには数多くの朝鮮から連行された人達が強制労働させられていました。広島、東洋工業、広島の東洋工業。広島の方いますか？細かい事ご存知ですか？今、なんていう会社になってるかご存知ですか？自動車の「マツダ」ですね。「マツダ」の前の名前は「東洋工業」です。ここにも朝鮮半島から多くの方が強制連行されて働いていました。その人達のことを半島応徴士と呼んでいたんです。この話を聞いて応徴士という徽章をもらって誇り

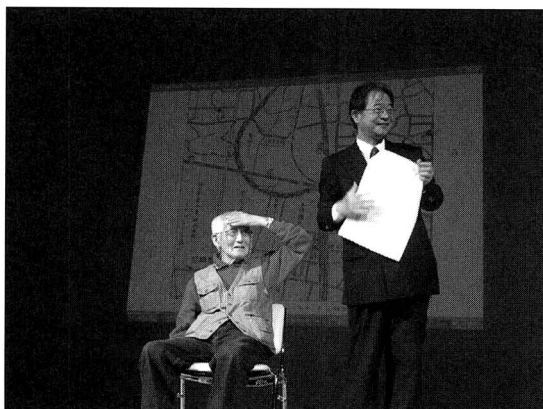
に思うことが出来るでしょうか。でも当時のろう者はその半島応徴士とって無理やり連れて来られた人のことなど知らずに、その徽章をもらって、誇りに思っていたんだと思います。

強制労働という情報はなかったんだろうと思います。今、私たちは調べたからわかりますが、当時のろう者はそういう事を知らずに尼崎で誇りを胸に働いていただろうと思います。朝鮮半島から連れて来られた人が、自分たちと同じ「応徴士」という資格をもらって働いていることなど知らなかったと思います。

静岡の清水市に「鈴与」という会社があります。静岡の方おられますか？今日はいないですね。清水市に「鈴与」という会社、そこにも朝鮮半島から多くの方が強制連行されていました。石炭を掘る所に朝鮮半島から沢山の人が連行されて来て、労働していました。その人達も応徴士と呼ばれていました。ろう者が名誉なら、朝鮮半島の人達も名誉という事になります。でもその人達は無理やり連れて来られて、とてもつらい思いをされたんですね。本当に名誉のことを思わせたいという、支配者の思惑が感じられてなりません。

さて、本日は実際に尼崎精工で働いていた方が一緒に来てくださっていますので、舞台上に上がって頂きたいと思います。中村正一さん、舞台上に上がってください。この写真の右側のかたが中村さんです。

中村/皆さんこんにちは、今大矢さんが色々話されました通り、私も以前尼崎で仕事をしていました。戦争のときに一生懸命仕事をしていたんですが、空襲とかもあって非常に怖い思いもしました。仕事を一生懸命してやっぱり食べる物も少なく、今は沢山食べることができんですけど、みんな



苦勞したことが沢山あると思います。今は皆さんおいしいお食事が、いつでもでき楽しくお話をすることも出来るという、いい時代になりましたけど昔はやはり、戦争中大変苦勞した事がありましたね。

今、あの、大矢さん。今のお話を見て「ああ、そうだなあ」と思い浮かべた所です。大矢さんのお話の様な経験を実際にしました。皆さんにも写真をご覧頂けてると思いますが、戦争の兵隊に行くような人達、大変苦勞されたと思うんですけども、包帯を巻いたりしているような写真もありますね。今はとてもいい時代になりました。レジメでお配りしているこの写真、この絵ですね。今は戦争もなく平和な世の中になってとてもうれしいと思います。

大矢／今、平和で戦争がなくなって良かったね、と中村さん言われています。そうですね、その通りですね。100歳まで生きてくださいね。今91歳ですね。いやいやこれからはどうかわかりませんね。司会の方はどなたですか？じゃ質問があったら、中村さんがお答えしますのでお願いします。尼崎精工について質問があればお願いします。お一人の方、手が上がっているようです。

岡山／岡山から来ました。大変素晴らしい講演を聞かせて頂きました。非常に感動しました。尼崎で働いていたというご様子ですが、実際に相撲はされたのでしょうか。

中村／相撲は余り好きではなかったんで、相撲が好きな方はやっぱり参加しておられたと思います。この資料の絵にある通りです。

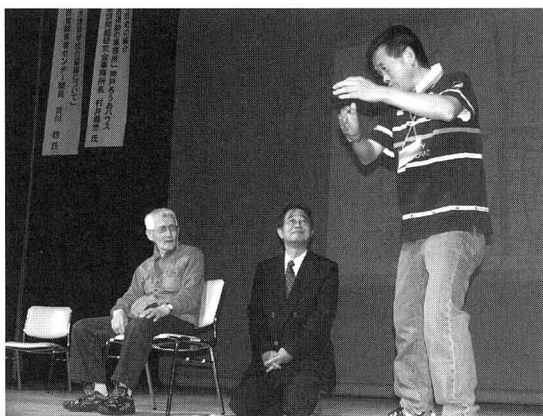
岡山／100歳までがんばってください。

中村／はい、ありがとうございます。

尼崎／私は尼崎に住んでいます。でも今の様なお話は聞いた事なくて、お聞きしたいんですけど、大矢さんのお話の中で応徴士の徽章を胸につけて、胸をはっていたと。本当はどうだったのか教えてください。

大矢／尼崎精工が空襲にあいましたね。その後戦争に負けて、それからお仕事はどうしたんですか。

中村／はい、あの他の仕事を以前尼崎で仕事をしていましたけれども、あの空襲でB29がやってきてまして爆弾を落として工場が仕事ができない。家にいると、軍部から呼出状が来たけれど、仕事



できる状態でない。仕方なく自然に退職の形のまま終戦になりました。そのあと、病院の白いユニフォームを作る、そういう白衣を裁縫する工場で働いて、定年でやめました。それ以降はのんびり過ごしてきました。

大矢／以前、応徴士だった人達も戦後はただの人になったわけですね。ただの工員になったわけですね。戦争が終わったら、兵隊だった人が沢山帰ってきます。尼崎精工は2000人から300人になって最後は0になったんですね。ろうあ者達は元気な健聴者が帰ってきたら、そこで働く事は出来なくなりました。

清水／京都からきました清水といいます。今日は尼崎の話をお聞かせ頂いて、ま、昔の話を聞いて非常にいい勉強になりました。聞きたいのは、沢山聞こえない人達が、100人を超える人達が働いていた。聞こえる2000人と一緒にどういうコミュニケーション、まあ、書いたりとかしていたのか？という事をお聞きしたい。それと命令されて働かされた。その時お給料というのはあったんでしょうか？給金というのはありましたか？もうひとつは休みもなく、日曜日もなくずっと働かされていたのか、たまに休みがあったのか？とか時間的な、働く時間というのがあったのか？教えてください。

中村／はい、わかりました。えっと給料の話ですね。給料はもらってました。ですけども本当に安いものでしたね。今は皆さん給料高いと思いますけど、安い給料をもらってました。それから仕事は休む人もありました。給料が安かったんだと思います。食べ物なんかやはり不足していて、みんなで並んで分けてもらったような形です。

今は本当においしいものが沢山ありますが、昔は粗末な物でみんなが順番にならんで配給してもらおうな形でした。おかげも何種類かの物が入れ替わるといような物で、今はとてもいいですけども昔はそういう事があんまり、あのおいしい物がありませんでした。

質問者／聞こえる人達の工員とのコミュニケーションとはどうなんでしょうか？書いたりしたのはんでしょうか？色々話されてもわからなかったと思うんですが、何か、紙に書いてとありましたか？

中村／いえいえ書いてではありません。あの、やはり手話の出来る聞こえる方がおられて、手話でお伝え頂きました。

大矢／健聴者が手話を読み取っていたのです。特に黒川さんが手話がうまかったというのと、もう一人主任さん、辻主任という人がいて、ろうあ者と三年間ほど付き合いを重ねるととても手話が上手になったと聞いています。そこで働いているろう者から手話を学んだんですね。2000人の沢山の健聴者は知らないんですね。工場が別々なので女子もいたけど、その方とのコミュニケーションはなかったようです。

質問者／はい、よくわかりました。すると日曜日とかいうのはどうですか？又、平日は何時～何時までという風なお仕事でしたでしょうか？

中村／私は朝5時からなんです。というのはあの、家が京都なものですから家を5時に出て大阪で乗り換えて、そして神戸に着いてという様な形で電車を何回か乗り換えないといけません。そして仕事場に着くわけです。で、夕方6時まで仕事をして7時とか8時までの残業もありました。

質問者／日曜日にも仕事がありましたか？

中村／はい、日曜日はあの、お休みする事もありました。

大矢／この資料にも書いてありますが、朝4時に起きて5時に家を出て、仕事を7時30分から始めて、夕方の5時まで仕事をして、家に帰ったのが7時という毎日の時間が書いてありますね。この資料販売していますので買ってくださいね。中村さんに元気な時に色々お話をうかがいすると、仕事が忙しくなってくると3交替で働いて、24時間体制で工場は稼働していたそうです。中村さんは大変だったそうです。彼があまり丈夫ではな

かったので7時まで帰っていて、健康で身体が丈夫な人が3交替で夜中まで働いていたそうです。質問者／ご苦労様でした。ありがとうございます。

西滝／質問時間はあと残り2分です。

大矢／地図が写っています。昭和15年尼崎の警察が作った地図が保存されていたので、それをコピーさせてもらったものです。ここに尼崎精工があります。市民運動場というのは、今と同じ場所に、今も同じ場所にあります。今尼崎の駅前に体育館がありますね。その隣に尼崎精工があったんです。昭和28年の航空写真があります。ここが空襲で焼けてしまった工場の跡地です。第1、第2、第3、第4、第5…工場と並んでいた様子がわかります。会社は昭和35年に閉鎖しました。今は「千鳥屋」という饅頭の会社が建っています。以上です。ありがとうございます。(拍手)

西滝／尼崎のこの表現は、鉄砲で尼崎と表しているのに驚きました。兵庫の方はご存知でしたか？詳しい中身については、本当に怖い話と思うんです。戦争の為にろうあ者が召集され、応徴士というのを与えて働かせた、という事で大変怖いお話だったと思います。非常に勉強になりました。今日は大矢さん、本当にいいお話をありがとうございました。(拍手)

続けて書いて又、本にして出して頂けたらと思います。皆さん、拍手をお願いします。中村さん、どうもありがとうございました。(拍手)

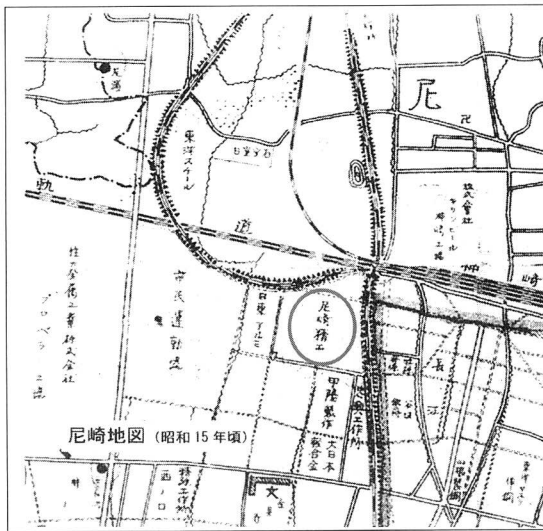


昭和17年10月27日発行

「昭和會報」昭和17年10月27日発行



手話「尼崎」考 資料集 表紙



昭和15年頃の尼崎地図



昭和28年頃の尼崎地図